

第2回 恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会
理事会 （会議録）

| | |
|---------|---|
| 会議の名称 | 第2回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会理事会 |
| 開催日時 | 令和5年8月3日 午後7時00分から |
| 開催場所 | 岩村コミュニティセンター 2階 大会議室 |
| 議題 | ・新聞報道の経緯について ・議事 議案 めざす恵那南地区統合中学校の姿（統合中学校のコンセプト） ・山岡中学校周辺の土砂災害特別警戒区域について |
| 公開非公開の別 | 公開 |
| 出席者 | 委員 西尾 公男 瀬瀬 佳恭 宮地 喜義 細川 祐輔 原田 英明 若森 慶隆 杉山 淳 平林 道博 安藤 常雄 太田 礼子 安藤 忠宏 横光 哲 篠原 徹 成瀬 久志 伊藤 直人 中垣 野歩 片桐 慎一 教育委員会 岡田 庄二 鈴木 幸宣 佐々木和美 安藤 善和 青木 茂 市川 太一 長谷川 棕 |
| 会議の内容 | 会議録のとおり |
| 傍聴者の数 | 10名 |

事務局長 それでは、時間となりましたので、皆様、こんばんは。
ただいまより第2回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会理事会を開催いたします。

この準備委員会でございますけども、5月31日の日に第1回目を開催して、その折にこの1か月後をめどに開催すると、私が申したと思いますが、部会を含めてちょっと一時中断をしておりました。今後、今日を皮切りに理事会、部会、再開していきますので、委員の皆様におかれましては改めてよろしくお願いしたいと思います。

また、昨日より委員の皆様を対象に、皆さんに部会等で現場イメージを持ってもらうために山岡中学校の見学会を行っております。昨日は昼、夕方の2回で27名の方にご参加をいただきました。あと、この後、6日、日曜日、午前10時から1時間程度の時間で見学会を行う予定になっていますので、この中で、もしまだ現場を見られていない方の中でご都合のつく方はご参加いただければと思います。

本日の会議でございますけども、要綱の第7条第9項によって、理事会は、理事の半数以上の出席がなければ、理事会の会議を開くことができないとなっておりますが、半数以上の方がご出席ですので会が成立したことを報告させていただきます。

本日の会議でございますけれども、この後、次第に沿って進めていきますが、円滑な会議の進行にご協力をお願いしたいと思います。

なお、会議録作成のために会議での発言内容を録音させていただきますのでご承知おきください。

それでは早速ですが、次第1、理事長挨拶、理事長よりご挨拶をいただきます。お願いします。

理事長 こんにちは。着座で挨拶させていただきます。

毎日大変暑い日が続いております中、今日、お仕事の後に、この7時という時間に集まっておきまして、この準備委員会を開催することになりました。どうもご協力ありがとうございます。

今日の理事会では、前回のご意見をいただきました統合中学校のコンセプトについて事務局より再度の説明がございますので、理事の皆様のご関連なご意見をいただければと思っております。

また、本日は一連の新聞報道に関する現況、記事を皆様に知っていただきたいと思っておりますので、後ほど教育委員会より報告をしてもらいます。

手短でございますが、以上で理事長の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いします。

事務局長 はい、ありがとうございます。

それでは続いて、次第2、報告事項、新聞報道による経緯について説明をさせていただきます。

事務局 はい、よろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

去る6月21日付の中日新聞の1面に掲載されました市職員が賛意の発言工作

という記事についての件で、この記事が掲載された当日から総務部の総務課で調査を実施しておりました。

今回、調査結果について発表されたことについてご報告いたします。調査対象者は関係する市職員と中日新聞記事に掲載された発言内容と、市説明会議事録から発言者を特定し、実際に中日新聞社から取材を受けた市民3人から聞き取りを行ったということでございます。

聞き取り結果といたしまして、市職員の聞き取りでは、賛意発言を促した事実はありません。また、中日新聞の取材を受けた市民3人の聞き取りでは、いずれも市職員から賛意の発言を依頼されていないこと、発言は自分の意思でしたことを確認いたしました。そのように総務課からの発表がございました。

市長からのコメントでございます。前回発表してから市職員や発言した市民の方から話を伺い、事実関係の調査をした結果、組織的に賛意発言を依頼した発言工作はありませんでした。今後も事業を進めるに当たっては今まで以上に丁寧な説明を心がけ、疑いを持たれることのないように努めてまいりますとコメントを出されておりましたので、ここでご報告いたします。

以上です。

事務局長 では、以上でございます。

続いて、議題3、目指す恵那南地区統合中学校の姿、統合中学校のコンセプトに入ります。

理 事 すみません。それだけですか。

事務局長 はい。報告のみでございます。もしご意見とかございましたら、その他の項目がございますので。

理 事 ああ、なるほど。

事務局長 そこで併せてご発言いただければと。

理 事 はい。

事務局長 議題のほうに先に入らせていただきたいと思います。

理 事 はい、分かりました。

事務局長 お願いします。

それでは、議題3に入ります。

これよりの議事の進行は要綱により、理事長が行うとなっておりますので、理事長、よろしくお願いいたします。

理事長 はい、分かりました。

では、ここからは設置要綱第7条第8項の規定により、理事長が議事を進めたいと思います。議事の進行に皆さんご協力をお願いいたします。本日は目指す恵那南地区統合中学校の姿、統合中学校のコンセプトの1議題について審議いたします。

本議題については事務局よりご説明を求めます。

教育長 よろしく願いいたします。

前回の理事会のときに資料を出させていただきました。その際には当日の資料配付ということもありましたし、十分な時間がないということでもいろいろとご

意見をいただく中でもう一度事務局のほうで練り直してくるということで持ち帰った次第でございます。

今回はご案内の資料の中に事前に配付をさせていただきましたけれども、もう一度、どのような観点で私たちが見直しをしたかというようなことを含めて簡単にお話をさせていただきたいと思います。

まず、前回、恵那南地区の中学校らしさということですね。そのところをもう少し色濃く出ないかというようなことも言われたと思いますけれども、今回、もう一度見直すに当たって、今回統合しますと、やはり人が増えるということ、多くの人と関わることができるということ、そこを1つ特徴ということで見直しを図りました。それから、もう一つはICTの整備を進めて、それも1つの特徴にできないかということで作ったものが今回のものでございます。前回と少し比較をしながらお話をさせていただきますが、「未来をつくる 人とつながる 地域とあゆむ」、その下の、「未来をつくる 人とつながる 地域とあゆむ」、そこまでは前回と変わっておりません。

その下のところから少し変わったところがございます。夢をもち、努力できる生徒、ここは変わっておりません。人との関わりの中でスタートしていると、少し漢字、平仮名というところがありますけれども、文言としてはここも変わっておりません。

その次です。地域を知り、活躍できる生徒というところですが、地域を知り、地域を愛する生徒というふうに変えさせていただきました。

その下のところは、「未来をつくる」のところは前と変わって、少し順番は変わっております。2つ目の中点の確かな学力、豊かな心、健やかな体、たくましいとか健やかなというふうに変えさせていただきました。体が将来の礎になることを自覚し、ひたむきに努力する生徒。

それから2つ目、少し変えました。前は積極的にコミュニケーションを図り、見方・考え方を深める生徒というふうに変えましたが、そこを自他ともに認め合う生徒というふうに変えました。

その次は、表現は少し変えたんですけれども、人との関わりの中で自分や集団を高められる生徒というのを高める生徒というふうに変えました。

それから、「地域とあゆむ」のところでいきますと、少し変わっていますので全文を読みます。前は、地域の歴史や文化を知り、地域に親しみをもつ生徒というふうにしておりましたが、今回は、地域の歴史や文化を学び、地域の魅力を知る生徒。

そして、2つ目の中点のところは、前回のものは、地域の一員として関心を持ち、積極的に関わる生徒でしたが、地域の一員として考え、行動する生徒というふうに変えています。

そして、その次の四角の中ですけれども、かなり変えておりますので、今回のものについて説明をさせていただきます。

まず1つ目の「未来をつくる」の四角の中ですけれども、深い学びと学ぶ楽しさのある授業。深い学びというのは、いろいろな捉え方があると思う

んですけれども、学んだことを生かして、追求したり、探究したりという学習活動を通して身に付けていったら、様々な力を身に付けていく、そういう学びのことを深い学びというふうに捉えました。そして、やはり学ぶ楽しさがあるということを目指して授業を組み立てていきたいと思っています。

2つ目に、これからの時代、ただ知識を手に入れるだけではなくて、それを使っていろいろな課題に向かって解決していくような力、これはこれから求められると思っていますので、課題解決力を育てる授業というふうにしました。

3つ目、夢を持ってというところがなかなか恵那市だけではないんですけれども弱いということもありますので、これからの生き方を考える、そういうキャリア教育というふうに呼んでおりますけれども、それを充実させたいということで3つ目に挙げさせていただきました。

4つ目は豊かな心、健やかな体を育てていくということで、どこの学校でも大切なものですが、そこを挙げさせていただきました。

2つ目の「人とつながる」のところの四角の中です。対話と協働のある学習活動。これもどこの学校でも大切にされているところですが、まず一番上に挙げさせていただきました。

2つ目に、互いの成長を願い高め合う仲間づくり。

それから、3つ目にICTを活用した遠隔教育。人とつながるということでICTを最大限に使っていききたいということでここに入れさせていただきました。それから、最後に、一人一人に寄り添う教育相談ということで、人とつながるというところの中で、保護者の方も新しい学校ができたときに子どもたち、不安がいっぱいあるだろうというようなこともありましたので、その中で一人一人に寄り添う教育相談、これの充実が大切ではないかなということで入れさせていただきました。

最後の「地域とあゆむ」のところは、まず最初に、地域との連携によるふるさと学習、ふるさと学習を大切にしますよということです。そして、人、物と直接触れ合う、学校へ行ったら座って勉強するだけではなくて、地域等に出ていって人や物と触れ合う、そういう体験学習を大事にしますよと。

そして、最後に、ただ学ぶだけではなくて、多様な他者と協働しながら、探究的な学習を進めていきますよということで述べさせていただきました。

そして、最後の環境整備のところは前回6項目挙げさせていただきましたけれども、それをちょっとまとめて、このように表現させていただきました。SDGsを意識した過ごしやすい校舎。2つ目が、豊かな学びを支えるICT環境の整備。3つ目、多目的ワークスペースの整備。最後、地域の歴史・文化が息づく校舎というふうに4つにまとめさせていただきました。

それで、ただ、言葉だけでなかなか難しいところもあったと思いますので、同封した資料の中に統合中学校コンセプト送付資料というものを入れさせていただいております。その中で、もう少し、この今、ご説明したところが伝わるように、ご理解いただくようにということで資料を準備させていただきましたので、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

理事長 ありがとうございます。ただいま教育長よりコンセプトについての修正の説明がありましたけど、この件につきまして何かご意見はありませんでしょうか。あれば挙手してお願いをいたします。

理 事 前回のご指摘事項というのは恵南の今のこの課題があるから、どうしたら新しい目指す姿になるんだというような指摘だったと思ったんですけども、その点についてはどのように反映されているのでしょうか。

教育長 ありがとうございます。最初にお話ししましたように、課題といいますか、ここをもっと充実させたいというところが、今のそれぞれの学校、人数、規模に差はありますけれども、なかなか多様な考えに触れて学び合うということが充実しておりませんので、そこが一番大きなところかなと。今回統合するに当たっての利点といいますか、よいところですね。そこを意識しながら表現をさせていただいたということが1つでございます。

理事長 よろしいでしょうか。

じゃあ、次、よろしくお願いします。

理 事 よろしく願いいたします。

今、言われたことと似ていますが、前回指摘されたのはもっと具体的に恵那南地区の課題に沿った内容を出してほしい、わくわくするような具体性を持たせていく必要があるという指摘があって、理事会のほうでもっと練ってきてくださいという話だったと思うんですよ。ですけど、今回の資料を見て、失礼な言い方になるかもしれないですけど、どこが違うのかなというような内容に思えてしまうので、その辺の具体的な前回の指摘された部分の表現が今の説明ではちょっと私には分かりにくいんですけども、その辺を教えていただきたいと思うのと、あと前回も指摘があった、その合併するに当たっての不安事項とか父兄が思っていることの中で、不登校ですとかいじめの件に関しての数値の質問があったと思うんですけど、その件に関して、教育委員会さんのほうは把握していませんと、数字は分かりませんという内容だったと思うんですけど、そういったことに関しての回答も今回ないですし、やっぱその辺を一番皆さん心配されていることだと思うので、友達が増えるとか、大きな環境の中でメリットは私もすごくあると思いますし、そういったことに期待している部分も大きいと思うんですけど、その反面の親御さんの不安に思っていることに対してどういった、そのワークスペースとか、そういった大ざっぱなことはあるんですけど、その辺の回答もあったら、もっと皆さん納得できるんじゃないかなと思います。

教育長 ありがとうございます。

まず、いじめにつきましては認知件数を教育委員会としては把握していますが、大切なのは認知件数もちろんですけども、それが解消した割合というふうに考えております。

それで、実際に昨年度の例でいいますと、昨年度の認知件数に対して、解消した割合は8割でございます。この解消というのは、いじめの事実がなくなった

状態が3か月続いたところでもう一度いじめの事実はないと確認できたときに解消というふうに捉えております。ただ、これは学校によって少し違うんですけども、3か月たっても、いや、もう少し心配だから継続して見ますよという、そこは解消に入ってきません。

それで、昨年度の例でいいますと、1月や2月に起きたいじめの事案でいいますと、その年度中には3か月たたないで解消にならないので、その分が残ります。それを継続して解消に向けて取り組んでいるところでございます。順次解消という形になっています。現状としてはそういうところでございます。

それから、不登校につきましては、県等のパーセントとあまり変わっていないということです。

それから、先ほどのわくわくするものということでございましたけれども、1つは、中学校は義務教育でございますので、どこもこれだけはやりましょうとか、これだけは力をつけましょうという、そういう今、新しい動きの中でキーワード的なことがございまして、それはそれでやらなければいけないということでございます。

それから、これはコンセプトですので、あまり具体的なことを出すというよりも大きくこういう姿勢で教育委員会は考えていますので、これを受けて各部会で肉づけをしていただきたいなということを思っていますので、あまり具体的になってない部分があるというのは確かかなと思いますけれども、その肉づけを何とかお願いしたい。その中でわくわくするようなアイデアも出していただければなということを思っていますので、こういう形にまとめさせていただきました。

理事長 ありがとうございました。ほかに何かご質問ありませんでしょうか。

理 事 いいですか。今日のこの会議次第は読めば分かるんですけど、このタイムスケジュール的なものがちょっと知りたいなと思いました。タイムスケジュールと、あと今日の会議の目的とゴールはどこに設定されているのか教えてください。その他、終わりがけに今日のゴールはここです、ここを目指してやりましたというのを聞いても、なかなか。私たちもどこをポイントに意見を言ったらいいのかなと思ったんですけど。

事務局 今日のタイムスケジュールです。今日は9時をめどに終了できればと思っています。この会場は9時半施錠になりますので、9時頃を目途に、皆さんの意見をいただきたいと思います。今日のゴールは、議題はこのコンセプトのこのみです。前回お示しさせていただいて、皆さんにご意見をいただき、今回、再度また皆さんにご提示させていただきましたので、これでたたき台と言ったら変ですけども、これに向かって皆さんが承認していただいて、新しい中学校をつくっていくということ、先ほど教育長が申し上げましたように、これから決まっていく中でこのコンセプトはもう少し変わってくるかもしれませんが、これをたたき台として皆さんに承認していただくというのが今日の議題です。あと、その他のところで、こちらの次第にございますように、山岡中学校周辺の土砂災害警戒区域のことも少し皆さんのほうに詳しくお伝えしたいと

思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。

理事長　　そういうことでよろしいでしょうか。ほかに。
理　事　　コンセプトを、じゃあ理事会でオーケーが出ましたというのが今日のゴールということですか。

事務局　　はい。

理　事　　それを9時までやると土砂災害のことができないので、その手前、手前というか。ということですか。

事務局　　はい。

理　事　　分かりました。ありがとうございます。

事務局　　お願いします。

事務局　　ほかにご質問ありませんでしょうか。では、お願いします。

理　事　　すみません。先ほど理事から質問があった内容と教育長さんが回答なられた内容って、皆さんご理解できたんでしょうかね。僕さっぱり理解できなかったんですけど、どうですか。いじめの数値、パーセンテージとか、この辺だけで実数出ないと分かんないかなというのがあったんですけど。で、なんやったっけ、というような感じがね。どうなんですかね。コンセプト、前回の課題に対して回答になってない気がするんですけど、僕がただ理解できないだけなんでしょうか。皆さん、理解はできましたか。どうですかね。理解できていたでしょうか。

理事長　　私の意見でございますけど、この少なくとも修正されました、今日発表されましたこの文章を見て、これで中学校の大体全体像的なもので、子どもさんたちがどのように授業をやるのか、どのような活動をされるのか、それをうっすらと想像ができるような、この中学校の姿になっているかなと私は思って聞いておりましたし、読ませていただきました。これは、そういう感じを受けましたね。全体像が見えた。

理　事　　いや、僕的には、今、恵南のこの中学校の課題って何で、統合することでどう解決できるのかなというところが明確に出てくるのかなというふうに思っていたんですけど、そこが何かまだぼんやりしているような気がして、どう説明したらいいのかなと思って、これを持ち帰ってほかのPTAの保護者の方に説明しようと思ったときに、どこをコンセプトとして説明していったらいいのかわちょっと見えないというか、理解できなかったんですけども、どうですかね。どう説明したらいいか教えていただけると。

教育長　　1つ、課題は多様な考えをという、その部分でございます。それが恵南ではなかなかできてない、できてないというか不十分だということでもあります。ですので、そこを最大限に大きくなるので、そこを最大限に生かして、こういう姿を目指したらどうかということでコンセプトをつくりましたので、課題としては多様な人との交流ができてないので、深まりに少し欠ける部分もあるのではないかなというふうに教育委員会は捉えています。

それから、先ほど数字のことでございますけれども、令和3年度の例しかございませんが、令和4年度はちょっとまだ出ていませんけれども、いじめの状況

でいいますと、認知した数は、小学校は81件、中学校は33件でございます。令和2年度は小学校は412、中学校は28という数でございます。で、先ほど言いましたように認知件数もですけれども、それを解消した割合でいいますと、年度末には8割いうことでございます。

理事 教育長 それ恵那市全体ってことですか。

理事 教育長 そうです。それから不登校の数は、これはちょっとパーセントなんですけれども、小学校は1.1%、中学校は3.2%、これは令和3年度です。令和2年度は小学校1.1%、中学校2.4%というような数でございます。

理事 理事長 すみません。

理事 理事長 説明がありましたけど、ほかにはご意見は。

理事 理事長 結論から言うと、前回の理事会の中で話題になったこととか課題になったことを踏まえて、今回のこの中学校の姿が出されているとは思われません。全然。先ほど意見言われましたけど、何ら本質的に変わってないというか、今現在、専門部会がスタートしているんですよ。それから9月には基本方針を決定すると、言っておりますよね。そういう状況にあって、このコンセプトを出すことがどういう意味かと、さっき少し話しましたが、私、前回の理事会で理事さんが言われたように、そのコンセプトがきちんと専門部会の中でいろいろ話題になったときに、その考える軸足になるというようなことを言われて、すごくいい意見だなと思って、その専門部会が始まっているんですよ。それなのに、このコンセプトが出てきて、どういう意味があるのかなということを思いました。

私は教育部会に参加していますが、理事会の後に8つの課題について話し合うというふうに言われて、ああ、それはいいなと。例えば教育の内容とか教育課程について、どうしたらいいかということについて話し合おうと言われたので、ああ、いいなと思ったんですけど、簡単に言うと5校のすり合わせをしよう。大体何のために統合をやっているかということの基本がないですよ。で、教育課程、長くなると申し訳ないですけど、学習指導要領に基づいてやりましょうねとかいって、5校が合わさったときに履修事項が違ふといけないので3月までに、令和8年度の3月までにすり合わせしましょう、ほんで終わりですよ。教育課程なんて言われますけど、教育課程の特例校っていうのは多くの統合学校やっていますよ。文部科学省の学習指導要領に沿わなくてもできるんですよ。

例えば、この地区の中でふるさと学習がすごく大事だから、ふるさと科というのをつくってできる。そういうことを何も言わなくって、文部科学省の学習指導要領に沿ってやっていきましょうね、すり合わせしましょうねって。教育課程の研究校というのもありますよね。そういうのもできるんですよ。今の話で恵南の5校の子がすごく数学の力が弱いから、習熟度別の学級をつくってやっていこうと。あるいは面白いのは、すみません、ちょっと長くなって。佐賀県の武雄市なんかは反転学習とかいうのをやっているのをご存じですか。子どもが先生の授業、学習から先生の説明から始まるのはおかしいって言って、子ど

もの質問から始めよう、それで反転というんですけど、そういうことだってできるんですよ、やろうと思えば。例えば、ここに書いてあるように、課題解決力を育てる授業が弱いといったら、子どもたちに学校来る前にきちんと勉強して課題を持ってこい、質問を、質問から始める授業というのもできる。

文部科学省だけじゃなくて、例えば農林水産省なんかで食育なんかの指定校もやっていますよ。恵那南地区はいろいろね、朴葉ずしとか五平餅とかコンニャクとか、様々な食生活があるから、子どもたちにその食育といいますか、農村生活、農的生活というかな、日本一の農村風景とかありますし、そういうのを1つのコンセプトにして、みんなで新しい学校をつくってこうというのは分かるんですけど、こんな、ありきたりという失礼ですけど、こんなこと並べてもらっても本当にあれかな、新しい学校をつくっていこうというふうに、特に私は思うんですけど、考える会の人たちも見えて、とてもいい機会だったと思うんですよ、このコンセプトを出すと。ああ、こういう学校なら賛成してもいいよとか、これ、こんなコンセプトでは全然考える会の人たちの言っていることについて、何かむなしいというか、悲しいというか、と思います。

ぜひ、1つは、今言われたように、1つ目の考え方は、やっぱり専門部会につながるようなコンセプトでないと、このお題目みたいに言ってもらっても、何ら、その自主的に、9月に、あれですよ、基本設計が下りるんですよ、9月に。違いますか。

事務局
理 事

はい、そうです。

そうでしょう。だったら、今、大事なことは、その統合した学校の子どもの通う姿をここで共通理解せなあかんと思うんですね。どんなふうに1日の生活をするということ。例えば、スクールバスが10個も来たんだな、ああ、10個やない、10台も来たんだなとかさ。でも、すごいぞと思ったのは、そのスクールバスと子どもたちの動線が全然交じり合っていないぞ。あるいは、山岡の子は自転車で通うんでね、自転車の動線も全然交じり合っていないで、安全な生活している、学校ができていって、そういう1日の生活をみんなで、ここで共有していくためのコンセプトだと思うんですよ。これさ、言っちゃなんですけど、本当に何か陳腐というかね、恵南5校のあれとは思えないので、私は基本的に反対します。

教育長

ありがとうございます。まず最初に、特例校とか、確かにいろいろな学校があると思うんですけども、恵那南地区でいいですよ、例えば特例校にしても何にしても、ある程度の基礎・基本等が身についた学校でやるべきではないかなと。まず、恵那南地区といいますと、恵那市全体そうなんですけれども、基本的に基礎・基本の力が弱いということもありますので、まず統合して、ふだんの授業で、たくさんの人数の中で練り合ったりするという、まずそういう授業からスタートするのがいいのではないかなということを思っています。その中で、新たにできそうなこととかを考えていくという、そういう方法もあるのではないかなと思っていますので、このようなものをつくらせていただきました。

理 事

ずっと説明会の議事録なんか見ましたが、教育長さんがぺらぺら、ぺらぺ

らしゃべってみえますよね。そういうのは、恵那市の再編対策室とかいうような組織的な中で話し合われたことを言ってみえるのか、それってきちんとその組織の中で話し合われたことを回答してみえますか。教育長が何か勝手なことを、個人の感想を言っただけですかね。

教育長
理 事
教育長
理 事

いえ、感想ではございません。

じゃあ、開かれましたか、ちゃんと。

何をですか。

前回の会議があった後、コンセプトを考え直そうとしてみえる、再編対策室ってたくさんその大勢の人たちおるけど、そういう人たちを交えて会議を開きましたか。

教育長
理 事
教育長
理 事

開きました。9回は開きました、少なくとも。

1か月の間に？

1か月というか、9回開きました。

ほいで、少しもそういう今言われたような意見を出す人はいないんだね。

教育長
理 事
教育長
理 事

陳腐とかって、そういう意味ですか。

うん？

陳腐とかいう、そういうことですか。これはみんなで考えてやって、アイデアを出したものです。

理 事
教育長
理 事
教育長
理事長
理 事

じゃあ、準備対策室を9回開いたと。

ああ、この会ですね。

うん、内輪の会。

開きました、はい。

どうぞ。

すみません。今、理事さんが言われましたが、やっぱりもう少し教育委員会のほうもきちっとしないかなというふうに思います。というのは、これやっぱり言われるとおり、前回も言われているんですけど、これ、どこの学校でも同じような形の部分のコンセプトを話し合っているだけで、本当に基本的にはこの統合する中学校の特色というか、旗印というのが本当にこうしたいという形の部分のところがやっぱりそこに鮮明に見えてきてないというのが一番みんなが何かいららするところかなという、そんなふうに思います。だから、今、各部会より肉づけするということも大事なやけど、基本的に教育委員会のほうが、こういう形のものはどうだというような形の部分があれば、もう少しきちんと具体的な形の部分をもう提案をしていくというような形の部分で投げかけないと、これを幾ら話し合っても、これ、どこに具体的なものを持っていくのかという形が分からない。

で、例えば、今言われたように、多くの人と関わるよと言っても、そのときには一番中心の目玉の具体的なものというのは一体何なのよということがその学校の特色になっているんだから、基本的にきちんとしたその旗印、特色というような形の部分を保護者の方と一緒にもっと話し合っていないといかんのではないかなと、そういうことを1つ思います。

で、例えばICTの活用って言っとるけど、今どの学校もタブレットぐらい皆持っとるわけよ。だから、それぐらいで終わっちゃうのというような話じゃなくて、今、本当に求められとる人材が、例えば今度リニアが来るんだけど、俺たちが昔、心配したのは、リニアが来たら基本的には、もう東京から1時間通ってくる人がいっぱいいるので、恵那の中の仕事は取り合いになって、絶対きちんとしてないと取られちゃうのではないかと。もっといい人材にしていかなだめなのではないかとかいう不安があるわけで。

だから、例えばその学力をどうしていくのかとか、ICTの活用っていったらもっと先端の、例えばICTの形の部分のところのある程度目が出るような、そういうことができるのかとか、そんなような形の分の、今、僕が考えているだけなんだけど、もっとその特色みたいな形の部分を明確に提案していくというような。で、それをどうしてもやれというんじゃない、どうですかという形で話題をもっと出してかないと、このコンセプトは、これ、僕らの学校で大体出すようなことと一緒になので、話し合えていっても、うん？とかいう話になってしまいうだろうし、これでは子どもたちも何にもわくわくしないなという感じがしますので、お願いしたいなというふうには。さっき言われたけど、これどうするんですかって言われた、そのとおりだと思う。いいですって言うしかないなというね、思いますので。すみません。以上です。

理事長 ほかにはないですか。

理 事 1 ついいですか。今、ご意見いただいて、教育長、どう思われましたでしょうかね。コメントいただきたいなと思うんですけど。

教育長 今ここに見える皆さんがね、なかなかまだ具体的というか、特徴が見えないよということでありましたら、それはそれで受け止めなければいけないと。こちらが仕切るという、そういうつもりは全然ないので。私たちも何回も話し合っている中で、目玉をどのレベルで持っていくかとかいうか、その辺はやっぱ難しいなということをやっと思っていて、できないことっていったらいかなですけど、できそうにないようなことだけど、ちょっと夢みたいなことをね、本当に語って、わくわくはするかもしれませんが、それでいいのかということもありますし。もちろん新しい中学校になれば、メンバーも新しい、職員も含めてね。そこで考えることも大切になりますね、その校長先生や職員がね。ということもあるので、その辺も含めて無難ということではなくて、今これが大切だと言われていることをもちろん挙げたつもりではございます、大きくずれているわけではなくて。それがほかの中学校と一緒にしないかと言われるれば、義務教育なので、そんな大きくずれることはないと思うので、その辺のところ1つ目玉といいますか、これに向かっていこうというものをつくるということは大切だなということを今感じてはおります。ただ、今すぐ答えは私も出せないで、それは申し訳ないなということもありますけども。

理 事 どうしたらいいと思います？僕思っていることが1つある、教育委員会がもうかなり欠落している点が、いいです？言っても。保護者の意見を聞いてないですよ。保護者と一緒につくり上げようという姿勢が見られないのかなという

ことをすごく懸念しているんです。9回、会をやられたって言っていますが、そこに保護者の意見ってどう取り入れられました？

教育長 それは内部でやりましたので。ただ、その中に、教員だけではなくてね、もちろん市役所の職員ですけれども、教育とはちょっと離れたというか、要するに教員じゃなくて、そういう方の意見も聞きながら進めてきましたので。恵南の人が誰が入っているとか、そういうことではないんですけれども、その中でやはり私たちもつくっていくと、だんだん、ちょっとこのことは難しいんじゃないとか、もうそのレベルからスタートして、で、これだけでは分からないので、こういう補足資料もつけたらどうかとかいうこともやってきました。ただ、夢とかそういうことになると、それぞれいろんな夢があるので、それを1つにまとめるというのなかなか難しいなということは感じながらこれをつくりました。難しいなということを思いながら、でも、その中で話し合った中で子どもたちに、本当にこういう力をつけて卒業させたいなということで表現をさせてもらったつもりではいます。

理 事 いいですか。再三、アンケートを取ってくださいって僕たち言ったんですよね。結局何てお答えされたか、タイミングが違うというふうにおっしゃられていて、そういったところが直してくべきじゃないかなって僕思っているんですけども。

事務局 じゃあ、私のほうから、アンケートのことについてちょっと説明させていただきます。実はこの6月21日の新聞報道の前に実はアンケートを出そうと思って、もう準備をしておりました。それについては子どもたちと、あと保護者の皆様に、小学校の方、対象ですけれどもアンケートを出す準備をしておりましたけれども、1か月、ちょっと延びてしまったということもありまして、今回このコンセプトが皆さんの中でおおむね承認されたということになれば、これを基に皆さんに、こんなコンセプトの中でどんな学校にしたいですかといったところを聞こうかなというアンケートをこれから進めていこうかなというふうに思っております。その中には、やはり統合して不安なことであったり、楽しみなこと、そんなこともお聞きしながらのアンケートを行う予定でございます。

理 事 ごめんなさい。そういうことじゃなくて。

教育長 つくる段階で。

理 事 そうそう。

教育長 保護者の考えが入れられないかということですね。

理 事 そう。そういうことを言っているんです。その後から取っても意味がないということじゃないのかなと、今、皆さんの意見を聞いていて思ったんですけど。

教育長 今ちょっと申しましたけど、6月の段階で取れば、ある程度これに反映できたことは確かなんですけれども、ちょっとそれが私たちの判断で止めたので、ここに反映されてないというのは確かですんで、それは言われることは本当によく分かります。

理 事 分かって、どうされます？

教育長 考えます、これから。

理 事 これから考える。

教育長 はい。

理 事 分かりました。

教育長 取り方も含めてというところがあるのでね。

理 事 今回、このコンセプトが出たんですけど、やっぱり前回の理事会の中で出された意見、先ほど言いましたけど、きちんと専門部会につながるような指針が出せるといいなということをPTAの方が言われたと思うんですけど、ほかにもアドバイザーの福地さんがすごく良いこととか、例えば、こういうコンセプトじゃなくて、統合の方針をきちんと構造化しろということを会議録を見れば分かると思うんですけど、構造化してほしいというようなことを言われたと思うんですよね。このコンセプトだけ出しても、恵那南地区の統合がどう進んでいくかということについて、その統合のビジョンと言ったほうがいいのか、コンセプトというと考えということでしょう、基本的に。概念を話し合っているだけだから、具体的にビジョンって一般の人にも見えるように課題を明確化したり、統合、何で統合しなくちゃいけないのかとかいうような、そういう構造化することが大事なことは私は前回のときに思いました。で、例えば、いいですか。すみません、ちょっと時間もらって。

理事長 拍手とか、そういうことはちょっとご遠慮願います。

理 事 例えば恵那南中学校という1本の木を育ててこうと思っているんですけど、それを構造化という点で考えると、1つは根っこ、地面に、私たちの目には見えない地面の中で根っこをどう育て、どう考えているか。それから、幹、1本の幹、そして太い枝、それから細い枝、で、その先に葉っぱが茂る。で、統合準備委員会でやることは、その葉っぱを豊かに茂らせるということなんです。だから、根っこをどう考えているのかとか、幹をどうしているか、考えているのかとか、太枝をどう考えているかってことが何もないんじゃないですか。結局今これは進めている段階で、これだけのものしか教育委員会として出せないでしょう。海津町というところがあってね、テレビなんかでご存じかもしれませんが、海津町出身の歌手がおって、その歌手を地元の誇りのある校歌にしたいということでずっと地域回っているいろいろ集めているんですよ。それで、海津町地域小学校統合基本計画って、19ページにわたって様々なことについて、今まで、要するに説明会の中で出てきたこと、例えば通学は1時間以内を目指しますとか、1日にバスは1本だけです、きちんとそんなものは怠けないって、いいかげんな気持ちじゃなくて、きちんと7時半に出るんだから、それまでに子どもたちの親は遅れないように自分で考えなさいよというようなふうやから、1日に1本ですよと、そういうことを何がありますかね、このずっと話し合ってきたところ、積み上げとして。これも福地さん言われましたよ。ずっと説明会の中で出たことをきちんとまとめ上げていくことが大事だよと。聞きたいんですけど、恵那市として、恵那南地区中学校統合基本計画というのはお持ちですか。

教育長 形としてまだできていません。

理 事 は？

理事長 そのきちっとした形としては。

理事 でもね、さっきも言っていましたが、9月には基本計画を終了して、できてないなんて言って、今8月ですよ。じゃあ、問答ばかりしとっていいかんで、例えば私でしたら、その例えば太い幹、幹には5つの力を1つに、大きい力、新しい力、5つの力を1つに、大きい力、新しい力、というような幹を立てると思います。そして、太枝、太枝は例えば今この中で話し合われたように、負担は増えるんだけど、その増える負担以上に魅力ある学校をつくろう。それから、太枝の2つ目は、例えば、これ、僕はすごく大事だと思うんですけど、そのあれですかね、通学の負担が増えるという声が一番多いんですよ。で、通学の負担が増えるってことについて、さっき額額さんも発言されましたけど、何でしたかね、小規模校検討委員だったか、学者が来てって言った。結局、いいですよ、1時間もいいですけど、長時間のバス通学によって学力低下が起きる、体力の低下が起きる。体力の低下は、例えば歩かないんですよ。子どもたちは歩いていくって言ったんですけど、バスに乗るから、体力の低下が起きた。だから、それ、そういうその教育環境の向上というふうに目指すんだけど、教育環境の悪化になっちゃう。それは全国の統合地区の勉強してもらえればいろんな方法で解決していますよ。

それから、例えばその学力低下でも、朝、朝部活をやったり歩いたりしてきたから、ある程度、脳が活性化しているんだね、子どもたちの中に。でも、バスで来るとね、本当に乗ってくるだけだから、授業の始まる前に脳が活性化してない。で、そういうところに例えば5分間体操やりましょうねとか、あるいはバスの中で図書館司書をつけたりして。

理事長 すみません。

理事 いい？話して。もう長過ぎる？

理事長 ちょっと……。

理事 いい話なので聞かせてもらいたいですけど、個人的には。

理事 はい、分かりました。

理事長 それで、今、本当にいろんな意見が出て、そのためにコンセプトを発表しているわけです。今のこのコンセプトについて、これだけのいろんな議論が出るということは非常にいいことだと思っておりますし、また、大事なことだと思っておりますので、今後、例えばここは準備委員会ですので、まず、コンセプトの原案について認めていただいて、それからまた、コンセプトの話をしたときに肉づけをしていくような、そういう今、皆様方の意見が肉づけになると思っておりますので、ぜひ、ここで一步決めて、1つのことを決めていかないと、準備委員会としても前へ進んでいかないともありますので、コンセプトを、まず、この原案を認めていただいて、原案に対して、またご意見をいただいて、肉づけをしていくというような考え方をしたいと思いますけど、どうでしょうか。まず、準備委員会ですので、決めていかんと、コンセプトのグレードアップにもなっていくと思うんですよ。なので、まず、この原案として決めていただいて、ご承認を得ていただいて、各部会から出る意見もそれに肉づけをして進めていくと。そして、今言われたことは、肉となって、太い幹となる

かと思いますが、どうでしょうか。これは別に今日これが決定事項ということじゃなくて、コンセプトは生きていきますので、どんどん。これは本当に会議をやる度に、いろんな意見が出していけると思っておりますが。

教育長 今いろいろご意見いただいたことは、これが間違っているということを言われているわけではないというふうに私どもは捉えておりますので、どこにでもあるんじゃないかと言われたとしても、間違っているというご指摘では全然ないので、もう少しその南地区のこととか、それからもっと言えば、確かに私たちも通学のことも一番大きな課題の1つだと思っているので、それについて、こちらもそれなりに情報を集めたり実際に行ったりしていることもあるので、そういうことも示しながら、不安なところは今こういうふうに考えているよというようなことを示さないから、よく分からないんだというふうに、そういうことですよね。課題等についても考えを持ってやっているのかということだと思いますので、その辺についてはもう少しお時間いただいて、それもちよっと含めて、基本計画を含めてつくるということで持ち帰りということによろしいですか。

理 事 一言だけ、じゃあ、一言。その中に、恵南らしさって言ったのは、5校を1校にするという極めてそのリスクが大きいし、また、負担が大きいことを、なぜやろうとしているかということをもっと言えば、2校案とか3校案とかあるわけですよね。なぜ5校を推し進めているのかということについて、きちんとその、ああ、2校の人たちに向かって、ああ、とてもいいことを聞いてくれましたね、私たちが願っていることは5校でできることは、こういうことなんですよといって、その夢とかいろいろきちんと出してもらいたいです。で、これ、議事録なんか見ますとね、教育長さんは明智の説明会がとても意義深いと私は思いましたが、適正規模ということを行っているんですね、適正規模。適正規模でないところは統合対象にする、これ、教育長さん言っているのは、何かそこでは1学年3学級が適正規模って言ってみえましたよね。

教育長 すみません、適正と言ったか、ちょっとあれですが。

理 事 あっ、じゃあ議事録見といってくださいよ。何か1学年3学級ないと、その新しい学校は駄目なんだというふうに言われたと。で、一方でね、結構ほかの地区の説明会では、複数学級あればいいんだというふうに適正規模を言ってみえるんですよね。だから適正規模、1学年3学級という根拠は何なんだと。1学年2学級の学校をつくるんじゃないくて、1学年3学級というふうに議事録見てもらえば分かると思いますけど。

教育長 それは言ったと。

理 事 明言してみえますよ。じゃあ、それ何で1学年3学級なんだという根拠を示してもらえると、その今度の方針の中でね、私たちもすごく分かりやすい。私、一生懸命考えたんだけど、あんまりよく分かんともあって、示して下さるとありがたい。

理 事 終わらせたくないわけではないんですけど、あと最後にちょっと1つお願いしたいんですけど、今の小学4、5、6年生がまず第1期生として入っていくと

思うんですけど、その子たちの姿がここにあるってことですよね、このコンセプトとして。で、これを今の小学4、5、6年生たちが見て、それこそ、わくわくするというか、あっ、そんな中学校だったら行きたい、ああ、ぜひ統合してよって思ってくれるといいなと思っています。で、うちの4年生の子どもは夏休み前、7月ぐらいから、もう学校に行きたくないって言い始めて、この学校に行けるかさえも怪しいところなんですけど。大体その来ている生徒を基準で考えいくと思うので、その一人一人に寄り添って書いていただいていますけど、ちょっと、そこもうちょっと明確に出していただけると、今の私の保護者としての心配事が1つクリアに軽くなってくるかなということはあると思います。

あと、その真ん中の「人とつながる」のピンクの四角の中にある対話と協働のある学習活動って書かれているんですけど、多分、保護者の中でちょっとこうフラストレーションたまっているというのは、きっとこの対話が不足していて、多分、保護者もその共にやっていきたいという気持ちは、少ない人もいれば、多い人もいると思いますけど、あると思います。なので、何かその味方にできる、頑張ってくれる保護者もいるので、ぜひいろんな保護者の方と対話をしていただきたいですし、保護者に限らず本人たち、本当に学生たちがどういう学校がいいんだというのが、もう、もう本当にOBじゃないですか、ここにいる人たちは。なので、じゃなくて、現役の人たちがどう思っているのかをぜひ反映していただきたいなと思います。よろしくお願いします。

教育長 子どもたちがね、これを見てということは、ちょっとこれは大人の人というか、なので。

理 事 そうですね。分かります。

教育長 言葉はね、多少変えたりしなければいけないなっていうことは思うので、子ども用には。だから、その辺も、まず、ちょっとすみません、こちらをということなんですけど、私ども工夫していかなければならないなということは十分感じました。

理 事 もう一点だけ。すみません、1人でしゃべって。

そのさっき太い枝って言いましたけど、太い枝の1つに入れてほしいのは、その小さな学校のよさといいますかね、今、5つの学校の中で串原とか上矢作とか、本当に人数が少ない中で一生懸命、子どもやってみえるんですが、統合したときにね、簡単に言うと、その何だっけ、子どもたちの出番、出番というかね、そういうことが減っちゃうんですよね。

例えば、少年の主張があったんですけど、今は5校でやっていたから、この前、明智の子が優勝したとか出ていたけど、5人の子たちはそのすぐくひな壇に立てるんですけど、1校になったら1人しか立てないんですよ。だから、その統合によって、小さな学校のよさ、子どもたちの出番があるとか、活躍できる面があるとか、そういうのも1つの柱にしてもらって。

例えば備品でもそうだと思うんですけど、ミシンとか、顕微鏡とか、いろいろ学校に配備されていますよね。で、それを例えば学校で一般的な基準でやるとね、子どもたちというのは少なくともそういう教材に接する時間は減っちゃう

んでね、串原の子とか。だから特例で、例えばその備品の基準を新設校については倍にするとかね、そしたらミシンにも触れる機会が増えるけど、大きな学校になっちゃったらあれですよ。あと、統合に関わりましたので、例えば統合やってよかったかというアンケート聞くんですけどね、1割ぐらいはよくなかったって言う。これ高いですよ、財務省の調査だと65%ぐらいが統合してよかったって言っているけど、9割とか、ああ、8割か、8割、8割ぐらいはよかったと。でも、よくなかったという子は、前の学校のやり方のほうがよかったというふうに言う、2年生とか3年生ですけど。で、そういう子たちの声にも応えるようにして、今言ったみたいに、教育課程の中でも私はそういうことを話し合ってもらいたかったです。でも、何も言わずにさっきの話、はい、じゃあ、履修事項だけ整えましょうって、すり合わせしましょうねで終わりだ。で、そういうふうに関わった学校のよさをきちんとこの新しい学校が持っていくというようなことも方針に出してもらいたいなと思うんですよ。

教育長 ありがとうございます。確かに少年の主張とかは実際には西とか東は2人ずつ出ているんですよ。

理 事 ああ、そうですか。

教育長 だから、そういうことも、もちろんできるというふうに思いますので、例えば3人にするとか、5人までいかないかもしれないですけど、そういうふうにももちろんできると思いますので、それも併せて考えていきたいと思います。

理 事 すみません、よろしいですか。ずっと平行線になっちゃうと思うんですけど、どうでしょうか、このコンセプト、上のほうからたどっていくと、おおむねいいんですけど、具体的な部分になってくると、どうしてもこういった意見が出続けると思うんですよ。で、さらに各部会がこれから開かれるわけですよ。また、その中でも出てくると思いますし、保護者の意見も聞いていただけるということであればまた出てくると思いますので、西尾会長、いかがでしょうか、今日はコンセプトの基本部分は承認せざるを得ないと思うんですけど、具体部分については、今後、十分に変わっていく、もしくは加えていくという具体的な事項をつけての今日承認ということはいかがでしょうか。場合によっては、コンセプトも変わる可能性が出てくることも踏まえて、そういうことで、会長、いかがでしょう。

理事長 今、ご意見が出ましたように、コンセプトに関しましては、今日提出したコンセプトはご承認していただいて、これに肉づけをしていくと、各部会と、そして、今、本当たくさんの意見が出た中を踏まえていただくという形で、今日この会議においては、このコンセプトを中心に進めていくということで準備委員会としてはそうお願いをしたいと思っております、今後もまだこれは決定というわけではありませんので、肉づけをして、皆さんの希望、教育委員会のほうと打合せをして進んでいくという形を取りたいと思いますけど、どうでしょうか。

理 事 それはそれでとてもいいと思いますけど、9月に基本設計を終えるというようなことを明言してみえますけど、基本設計ということは、ある程度教育内容と

かについて大筋のことが決まるということなので、それは変える気はないんですよ。

教育長 今、作成中ですので、はい。いや、変える気はないというか、例えば建物でいますとね、実施設計に向けて、また、もう少し練ることはできると思いますけども。

理 事 例えば、さっきの通学の負担なんだけど、多くの学校は、学校までバスを送らないで、もっと近くに降ろして、山岡でいうと何ですかね、農協の辺に降ろして歩かせたりするというようなことをやっているんですよ。で、そういうこともはっきりしないまま、例えばロータリー造るとかいうようなことが決まるわけですかね。

教育長 それは今の、要するにどこで降ろすかということですね。

理 事 はい、どこで降ろすか。さっき言ったみたいに体育のカリキュラムをもっと子どもたちが運動するというか、歩き回るようなカリキュラムを中心にやっていくんですね。ベースボールなんか、野球なんかだと動かない、子どもたちが1時間。だから、もっとその恵那南中学校の体育カリキュラムは駆け回るというか、見るとね、例えば登校前の歩数なんか、岩邑中学校の子が平均して何ぼ歩いているかとか、それだけは確保しようとか、そういうことをきちんと科学的にやっているんですよ。

理事長 そうような問題は、環境部会とかでいろいろと検討されてくという。

事務局 はい。今、基本設計というところなんですけれども、たたき台は出てきた中で、一度、環境部会のほうに全て投げかけます。そこで意見等をいただきまして変更も可能でございます。で、スクールバスの、ロータリーとかスクールバスの情報、運動のこととか教育のカリキュラム、そういったものもそれぞれの部会でこれから皆さんの意見をいただきながら決めていきたいと思いますので、教育委員会が主導で進めるのではなくて、皆様の意見から決めていきたいと思っておりますので、その辺もご理解いただきたいと思います。

理 事 すみません、1ついいですか。先ほど父兄のアンケートというお話がありましたが、これ、さっきの理事が明智のこども園、小学校、中学校のアンケートを取って、来週、教育長のところへ直接お伺いして意見を申し述べるというふうに言っていますが、やっぱり保護者の意見を聞いてほしいという皆さんの意見なんで、ぜひ全体でアンケート調査をしていただいて、保護者の意見を取り入れていただくということを中心に考えていただきたいなというふうに思います。よろしくをお願いします。

教育長 ありがとうございます。子どもも含めてですけども、はい。

理事長 それでは、今日のこの議題につきましては、今までの意見をこの原案に付け加えるということで、ちょっとまた再度提出するということで、今日のご理解をしていただきたいですが。

理 事 ちょっと、再度、すみません。今ここにコンセプトを出していただいて、これを、今、先ほどの理事さんの案ですと承認をしていくと。で、ここに肉づけを、そのアンケートなり、保護者の意見等々をもらって肉づけをしていくという考

え方でいいってことでいいんですね、そういう確認で、今日は。そうすれば、最初におっしゃったような意見が何が分からんとかいう、そういうことはなくなるはずですよ。

理 事 そもそも、これ、たたき台っておっしゃっていて、その承認する、しないというレベルの問題じゃないんじゃないかと思います。それで、その現段階のものとして私たちは受け入れるということで、その先ほど理事さんが樹木に例えておっしゃったこととか、そういうのもすごくいいなって、分かりやすいなと思うので、その、これは間違っていないから承認という、消極的承認になっちゃうんで、もう少しその積極的に、ああ、いいなと思えるようなものを保護者とか子どもたちの意見も聞きながらつくっていただくということで。で、現段階の本日出たものについては間違っていないという意味では、まあそうでしょうということで私は受け止めますけども。

理事長 ありがとうございます。今のこの原案については、基本的に賛成というようなお言葉もいただきました。そして、この原案について、また今後、皆様の今日出た意見を取り入れながらいくということで、教育委員会のほうは、もう一度お戻ししますので、また提出をお願いいたします。そのようなことでよろしいですか。

理 事 はい。

理事長 それでは議題、目指す恵那南地区統合中学校の姿については、これで終わりたいと思います。あと、事務局のほうへお任せをします。

事務局長 ありがとうございます。

それではここで、その他のところに入りますけども、この後のスケジュールとして、ここに書いてございます山岡中学校周辺の土砂災害特別警戒区域についてということで、少し映像もご覧になりながら説明をしたいと思いますが、それより前に先ほど理事さん、冒頭に、その他のところというようなことを。

理 事 ああ、はい。新聞報道について、あれだけの説明ですかという内容です。その後も新聞報道ありましたけど、その点についてはどうなんですかね。プライバシーとか、いろいろとあったんですけどというところが説明なかったなと思ったんですけど、そこだけです。

事務局 この調査につきましては、総務部の総務課のほうで調査しております。逆に私たちも調査されるほうでしたので、この調査の内容については、どのように調査したかはコメントを控えさせていただきますし、私たちも分からない状態です。ですので、報道にあったものだけしか皆さんに報告できないこととなりますので、よろしくお願いいたします。

理 事 あともう一点だけいいですか。今回、こういうことが普通の一般企業から考えると、何か不祥事みたいなことがあった場合に、ほかになかったかという調査って普通されるんですよ。そういったことは、ほかになかったかというような調査はされたんでしょうか。

事務局 私どもが聞いているのは、この件に関してだけ調査をしたということを聞いております。

理事 分かりました。じゃあ、それしか分からないということですね。

事務局 そうですね。申し訳ございません。

理事 はい。

事務局長 それでは、その他というところで、皆さん少しご関心があるかと思いますが、山岡中学校周辺の土砂災害特別警戒区域ということについて、ちょっと写真等を撮ってきましたので、写真をご覧になりながら、実際このいわゆるレッドゾーンと言われるところですけど、レッドゾーンって何？というところ、どんな影響があるの？とか、そういったことを最初に説明をさせていただきます。説明をした後に、もしご質問とかあれば、ご質問をまたいただければなというのを、この時間で伝えたいなと思いますので、よろしくお願いします。

事務局 では、説明をお願いします。

事務局 私のほうからお話をさせていただきます。失礼ながら座って説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

では、資料の1番裏のページを見ていただきたいと思います。山岡中学校の周辺に4か所の土砂災害特別警戒区域、いわゆる一般的にレッドゾーンと言われる区域がございます。このことについてお話をさせていただきます。

このレッドゾーンというのは、土砂災害防止法というふうに一般的に言われる法律がございますが、この法律に基づいて指定がなされているものでございます。今、お示ししていますのは、つい最近でございますが、山岡中学校を空からとらえた写真になります。

航空写真に、お手元にある資料と同じ記号を振らせていただいておりますが、このように学校周辺に4か所の土砂災害の特別警戒区域があります。指定の範囲につきましてはお手元の資料をご覧いただければと思います。

この土砂災害防止法というのは、平成11年に広島県で大規模な土砂災害があり、それを契機に平成12年に制定されたものでございます。平成14年に第1号のレッドゾーンの指定が広島県内でなされまして、岐阜県内でも、今現在進行形で指定が行われているという状況でございます。県内では、令和4年4月時点でございますが、レッドゾーンが14,803箇所指定がなされておりまして、そのうち恵那市におきましては922箇所のレッドゾーンの指定がなされていると、こういう状況でございます。

レッドゾーンがいかなるものかということを説明する際、まずこの法律がなぜできたのかということをお話させていただきたいのですが、この法律の目的は、急傾斜地の崩壊が発生した場合に土砂災害のおそれがある区域について危険をあらかじめ皆さんに、地元の方々に周知することによりまして、警戒避難体制を事前に整備をしていただこうということが法律の第1条にも書かれております。レッドゾーンがいかなるものかということについて、ちょっと一言で説明するのがなかなか難しいんですが、1つ申し上げたいのは、レッドゾーンの中でもいろいろありまして、指定されたからといって、じゃあ直ちに逃げなければいけないとか、直ちに引っ越ししなければいけないかということについて一言申し上げますと、この土砂災害防止法の中には移転勧告という制度も盛り

込まれていまして、本当に危険だというふうに、これは県のほうの指示になりますが、本当にこれは危険だということになりました場合については、県のほうから移転勧告をするという、こういう制度もこの法律の中に盛り込まれておりまして、レッドゾーンの中でもさらに段階があります。山岡中学校につきましては、移転勧告が今現在ではされている状態ではないということをご報告をさせていただきます。

レッドゾーンというのはそもそもどういうものか、もう少し具体的に説明させていただきますが、角度が30度以上の法面で、かつ、高さが5メートル以上あることがレッドゾーンの指定の要件になっています。今、周辺に4か所あるというふうに話をしましたが、ちょっと現場で写真を撮ってきましたので、ご覧いただければと思います。

まず、見ていただいているのは、これはアの法面になります。このアの法面は高さが16メートル弱ございます。法面の角度は、一番急なところで32.02度、緩やかなところで30.23度という角度になっておりますので、30度かつ5メートルを超えているということで、レッドゾーンの指定がなされているということでございます。近くから撮った写真がでございます。正面はこうやって草で覆われている状況になっております。

続きまして、イの法面になります。これは学校の裏側になります。こちらは高さが6メートルです。角度が30.18度から35.52度で約5度、それから高さが約1メートル基準をオーバーしておりますので、現在、レッドゾーンの指定がなされているということになります。

それぞれこれから対策をしていくわけですが、どのような対策を実施していくかといいますと、この30度かつ5メートル以上というのが、レッドゾーンの基準になりますので、角度を30度未満に削る、切土工法といいます。この工法がレッドゾーンの対策工事としては一般的な工法になっております。実際にはどのような方法で実施するかということにつきましては、既に建設課のほうで検討が始まっておりまして、実施設計を委託いたしまして、その中で工法を検討していくということになっておりますが、工法としては切土工法という一般的なものになっています。

続きまして、ウの法面になります。ちょっと分かりづらいんですが、実はウの法面はちょっとほかのところと違いまして、ア、イ、エにつきましては、これは学校側に向かって下っている法面。ということは、崩れたときに学校側に崩れてくるという法面なのですが、ウにつきましては、外側に流れている法面でございます。崩れたときに学校の外側に向かって崩れていくという法面です。ちょっとほかのとは性格が違うという状況になっております。

ちょっと分かりにくいですが、写真の一番上の左側にコンクリート構造物が写っております。これ、学校の周辺にあります土留めのために造った鉄筋コンクリート製の擁壁で、その外側にある法面が5メートルかつ30度を超えている、こういう状況でございます。外側に向かって崩れていくよという状況でございます。

あと、もう1枚めくります。これがエの法面です。これは学校入り口付近にあるところでございますが、これが、高さが9.45メートル、角度が38.86度から40.8度。これは中では一番急な角度になっている法面になりますが、こちらでも切土工事でおそらく安全対策をしていくことになるのかなというふうに思います。

ちなみに、切土工事といいましたけど、具体的にどんなものかということをご説明する、ちょうどいい事例があります。大井第二小学校といいまして、恵那市の大井町内にあります小学校で、昨年度までにこの切土工法によりますレッドゾーン対策工事を実施いたしました。今、見ていただいておりますのが、工事が完成した状況になります。切土工事を行いますと、このような状況になります。これは当然角度が30度未満になっていると。これをもってレッドゾーンが消えますと、こういうことになります。

これは空から撮った写真ですが、これは工事施工後になりますが、画面向かって上のほう、上から右のほう、こちらが対策工事を実施した土地の状態になります。山岡中学校につきましても工法の検討はこれからになりますが、このような工法をもっておそらくレッドゾーンを解消していく工事を既に着手しておりますが、実施していきますということになっております。

すみません。手短ではございますが、以上で土砂災害特別警戒区域について説明をさせていただきました。ありがとうございます。

事務局 ありがとうございます。

それでは、この件に関してご意見、ご質問等ございましたら、挙手にてよろしく願いいたします。じゃあ、どうぞ。

理 事 事務局 この件については、いつ市は把握されたんでしょうか。

このレッドゾーンの内容を知ったのは、今年の5月でございます。それで、なぜかという、基本設計の予算がつけましたので発注の準備をしている段階で、ここがレッドゾーンになっているよというところを把握したというところから対策に入るということです。

理 事 事務局 5月？

5月、はい。ああ、4月から5月だということですね、はい。

理 事 事務局 発表があったのはいつですか。

発表があったのが、令和4年の11月。

理 事 事務局 去年の11月。

去年の11月、はい。情報収集が遅かったという点は反省しなきゃいけないところかなと。

理 事 事務局 土木課からこういう情報が入ったんですか。

いや、これは県がホームページ上に公表する、告示をします。

理 事 事務局 それを恵那市はどのように引っ張ってくるんですか。

県が公表するのみでございますので、そこを我々のほうで情報を、アンテナを高くして収集するということですね。

理 事 今言われた4月から5月、間違いないですね。

事務局 はい。我々が知ったのはそこです。

理 事 本当に大丈夫ですか。

事務局 大丈夫です、はい。

理 事 分かりました。じゃあ、それだったので保護者説明会等で、このことについては説明会も含めて説明できなかったと。

事務局 そういうことになります。

理 事 で、いいですか。

事務局 はい。

理 事 本当にいいですか。ちょっと自分が聞いている内容と違うんですけど、本当に大丈夫ですか。

事務局 はい。説明のとおりです。我々が知ったということですよ。

事務局 教育委員会がというご質問ですね。

理 事 そうです、教育委員会が。

事務局 教育委員会のほうが。

理 事 教育委員会のほうはですか。市はもっと前に知ったということですか。

事務局 建設課は知ったというか、県が告示をしますので、11月に。そこで知ったか知らなかったというよりも、そこで県、岐阜県としては、そこで公表、発表したの知っているでしょうという考え方。我々は発表されたほうを、情報を引っ張ってこられなかったので、把握してなかったという形になりますね。

理 事 はい、分かりました。

理 事 これ、全然関係ないことなんでちょっと質問したいですけども、これ山岡中学校がこの土砂災害に指定されてというのは分かるんですけど、これ、後から県が指定しているので、引っかかる学校なんて相当あるんじゃないかと思うんですけど、これ統合する云々、いかににかかわらず、安全対策みたいなものはしていかなきゃいけないし、そこはまた頑張っしてほしいなというふうにして思います。

事務局 それから、もう一点聞きたいのは、これ、造成工事するときに土砂災害とか、そんなものはきちんと県が許可しとるはずやろうね。それを後から災害を指定してくるという、意味が分からんのやけど。

事務局 そうなんです。土砂災害防止法という法律が先ほど申しましたが、平成12年に制定された法律で、それまではこの考え方がなかったんです。広島に大きな事故が、災害があったのでできた法律ということでありまして、例えば、それまでの法律に沿って正しく造成されたところであっても、新たにレッドゾーンが塗られたという事例の中にはあります。たくさんではないかもしれませんが、中にはあるという状況です。

理 事 もう一点、いいですかね。ここの地域って基礎調査区域だったと思うんですけど、それはその辺の自分、ちょっとよく分かってないんですけど、この辺って何かご存じですか。

事務局 ちょっとごめんなさい、わかりません。

理 事 ここはレッドゾーンを見ると、点線と実線があって、レッドゾーンって、ああ、

レッドゾーンというか、この土砂災害。点線のところは基礎調査何ちゃらみたいなことが書いてあるんですけど、これ、どういう意味ですかね。

事務局 理 事 ごめんなさい。わからないです。

理 事 基礎調査って何か実際先に調査されたのかなという意味かなとかって思ったんですけど、何かご存じじゃないですか。

事務局 理 事 すみません、知らないです。申し訳ないです。すみません。

理 事 じゃあ、調べて教えてもらえますか。

理 事 理 事 それ何か意味ありますか？そのことを知って、これから工事をして対策をやりますって言われとるやんね。そのことを、前のことをこうして、それ何が。

理 事 あります、あります。

理 事 前にプラスになることがあったら教えてください。

理 事 はい。もし事前に知っていて、保護者に説明してなかったって、これ大問題じゃないですか。

理 事 いや、知らなかったものは報告できんでしょう。

理 事 理 事 本当に4月から5月なんですかねと思っただけです。

理 事 理 事 いや、そう言われとるやない。そしたら、それ違いますよということを実証されるわけですよね。

理 事 いや、なので、どうなんかなと思って聞いている。

理 事 理 事 そういうこと。その憶測で物を言うのってらいかんで、こんなとこで。

理 事 理 事 はい、もうそうです。大変申し訳ないです。そうですね、はい。そこはもう謝ります。申し訳ないです。

理 事 理 事 理 事 こういうことがあったんで、実は行政はこのときには知っていたはずだということを出されれば。で、それじゃ市もはっきり言うと怠慢だねって話だけど、その後にそれをつついったところで何がありますか、プラスの面が。

理 事 理 事 いや、その姿勢が僕よくないと思う。

理 事 理 事 いや、だから知らなかったことって言われとるんだから。

理 事 理 事 まあそうなんですけど、ちょっとごめんなさい。もうやめときます、すみません。はい、そうですね。

理 事 理 事 理 事 こんなとこでそんなこと言う時間がもったいないと思う、わしは。

理 事 理 事 おっしゃるとおりですね、そうですね。

事務局 理 事 その他、何かございませんでしょうか。

事務局 理 事 この対策工事を実施すれば、この問題はなくなるっていうことですか。

事務局 理 事 理 事 理 事 そういうことです。それは統合する、しないに関係なく、この後、今、設計をして、設計が終わった後に対策工事をして、で、さっきの30度、5メートルという条件がクリアされれば解消されると。例を見せたように大井第二小学校はそれで解消になっています。なので、それはそんなに3年も4年もかかっていくことではなく。特に敷地内に入っているこのア、イ、エ。ア、イ、エですね。まあウは外に流れていくものですので、敷地外なんですけど、ア、イ、エに関しては、早速に対策工事に入っていきたいということであります。

理 事 理 事 ありがとうございます。

事務局 そのほかよろしいでしょうか。何かご意見ありましたら。よろしいですか。

理 事 このことに関わってですか。

事務局 はい。

理 事 ありません。

事務局 ありがとうございます。

事務局 それでは、以上をもちまして本日の議題、報告、その他の課題が挙がりました。

理 事 ああ、ちょっと。1つだけ。

事務局 はい。そのほかになにかご意見がありましたらということです。

理 事 いいですか。たくさんしゃべらせてもらって申し訳ないと思うんですが、これなるべくしゃべらないほうがいいなと思っているんですけど、ですから、例えば教育長とか事務局長とか室長さんとか、じかに教育委員会に訪問して自分の考え方を伝えて、この場で何かこれ見よがしに言うのは何か失礼かなと思って、そういう姿勢を取ってきました。でも、室長さんが言われたのは意見言ったんですけど。私たちは私たちのやり方があります、恵那市は恵那市のやり方がありますというふうに言われたので、この会議の場ではね、言う、言わないという方針を変えて、会議の場でたくさんしゃべらせていただきました。そのことはみんなに了承してほしいなと思います。

事務局 それから、2つ目は、専門部会との関係がはっきりしてないんですけど、専門部会は、これ、どんどん、どんどん進んでいっちゃうんですかね。さっき言いましたように、教育部会ですとね、例えば8項目あるんですけど、ほとんど学校の教員がやります、はい、皆さんにも報告しますよってだけで、協議することが何もなくって、1つだけ、それは学校の図書館をどうするかということなんですけど、担当者が言われること、どんな図書館にしたいですか、考えてください。そんな、どんな図書館にしたいですかって言われたって、学校経営とか、いろいろ関係すると思うんですけど。で、そういうふうにして進んでいっちゃうのでしょうか。学校の徴収金とかいうのもあったので、ああ、何かいいあれが出るかなと思って。例えば学校の給食費って恵那市はどうやって集めてみえるんですかね。

事務局 今は口座振替ですね。

理 事 じゃあ、口座振替って、じゃあ落ちない子はどうなるんです？

事務局 落ちない人は給食センターのほうから督促が、今、督促って言わないんですけど、納入催促をして。

理 事 学校の教員が、じゃあ一切関わることはないですか。

事務局 ないですね、はい。まあ一部、例えば、少し専門的な話になってしまいますけど。

理 事 未収金があるんだよね。

事務局 はい。準要保護費とか等々の収入がありますよね。そういったところは保護者様の了解を得て、そこから充てるといような事務を、学校の事務主任さんはやってみえるかもしれないですが、教員の先生方が例えば集めに行くとか、回収に行くということはないですね。

理 事 ということは、その今、学校の徴収金という1ページがあったので、1項目あったので、私は知らないで申し訳ないんですけど、もし学校の教員とか事務官とかが関わっているなら、この統合を機会に、教育委員会がもうそれは責任持ってやると。ね。学校の先生の負担はなるべく減らして、先生は子どもたちと向き合う時間を増やす、そういう方針を1つのさっき言った太枝の1つにしてもらってやっていくといいなと思ったんですが、結局、次の理事会の前に専門部会とかいうのを開催されるんですか。1回目は終わっちゃったんですよ、もうほとんど。

事務局 はい。先ほども少し申しましたけども、枝葉の部分ですね、この部分のご意見を今日このメンバーでお話しいただいた中でもいろんなご意見が出たので、そのさっきいろんな決める項目の中で、さらにまた専門部会の皆さんからの意見というところも必要になってくるかなと。併せて、保護者さんの意見とか、子どもたちの意見とか、そういうのも、いわゆるその枝葉の意見は聴取、いただきたいと思うので、それを専門部会でちょっとお話をしていただきたい。これで決まってやりましたから、これでいきましょうだけではなく、もう一回それでご意見をいただく。これ、こういう大勢の場だとなかなか言いにくいかもしれないので、専門部会だと例えばやり方として、6人ぐらいで3つに分かれてやるとか、いろんなやり方があると思うので、ちょっとそこは部会長に話をしながら進めていきたいなというふうに思います。

理 事 保護者とか地域の方が集まってみえるんですけど、すごく私たちにとっては学校が抱えている課題というのが見えにくいんですよ。一生懸命、学校の便りなんか見ますけど、現在の学校規模でどういう課題があるかということについて、とてもその、分からないというか、不勉強なのかどうか知らないですけど、そういうところをきちっと可視化されるというか、こういう保護者とか地域の人たちに分かるように、こういう課題を統合によって乗り越えていきたいんだというようなことを示してもらいたいかなと思うんですよ。みんな一生懸命、地域の人たちもね、いい学校をつくろうってことで知恵を出してみえると思うんですけど、何が一体問題なんか、現状で。そういうことがすごく分かりづらいなと思いますので、ぜひ専門部会1回目ですり合わせ、すり合わせで終わっちゃっているけど、もう一遍、整理してもらって、できるといいかなと思います。

事務局 そうですね。そういう形で進めていきたいなと思っています。

理 事 やはり部会が大事ですので、そこで具体的にやっていただきたいと思います。

事務局 そのほか、どのようなことでもよろしいので。

理 事 すみません、上矢作からのこの準備委員会での選考委員、保護者の意見として、この理事会とか部会でも、どうしても役をやっていて出られない方もみえるんですよ。で、今、恵那市はこのICTとか、いろいろ進めているので、じゃあZoomで会議もできる、参加できるようにするとか、僕らが行って、上矢作のその選考委員を小学校、中学校集めて意見のすり合わせとかをするんですけど、人が集まるときには全校の保護者、全生徒の保護者に対しての報告もする

んですけど、なかなか、何ていうんですか、全部一言一句言えるわけでもなかったりするので、その理事会にしろ、部会にしろ、Z o o mでの参加もできるようにしてほしいという意見がかなり上矢作地区はありましたので、その辺の対応をしていただけるとありがたいと思います。

聞くだけでもいい、傍聴にね、それもできないとか、見られたりとか、仕事の関係で来られないとか、見るだけでも、聞くだけでもいいので、Z o o mでの配信いただきたいという話がありましたので、早めに検討していただきたいと思います。

事務局 はい、ありがとうございます。その件についてもいろんなところからご意見寄せられていますので、私どもがこの会議の公開というところの中で、要綱という制定がございますので、その辺がどういうふうに対応できるか、ちょっと調査させていただきまして、検討させて、また報告させていただきます。よろしいでしょうか。

理 事 私、たくさんしゃべらせてもらったんですけど、皆さんの声を一言ずつ聞きたいと思います。よろしくお願いします。

理 事 それは何について？

理 事 どんなことでもいいんですか。

理 事 感想でもいいと思うんですけど、せっかく 1 時間半座ってみえて、何もしゃべらず帰られていくのも。

理 事 じゃあ、最初に。上矢作はこども園、小学校、中学校、市議、振興事務所長、学校運営教育会議で五長会という情報交換会があります。で、そこの中でいろんな情報をもらえて、僕のほうに入ってきますし、そこで偉そうに指導しています。よろしくお願いします。一言だけ。

理 事 ありがとうございます。

事務局 皆さん、発言よろしいですか。もし発言していただけるのであれば、せっかく来てくださいましたので。よろしいですかね。保護者の皆様よろしいでしょうか。何かご意見ございましたら。大丈夫ですか。

事務局 どうでしょうか。発言される方、もしよろしければ。無理にということではございませんので。

理 事 （複数の理事より、既に発言したとの意見あり）

理事長 最後締めで。今日の会議、いろんな意見を聞かさせていただきましたので、本当にありがたいと思っておりますので、また大勢の皆様のお力を借りて、一步一步進んでいけばと思っておりますので、よろしくお願いします。

事務局 ありがとうございます。

理 事 ありがとうございます。

事務局 それでは、以上をもちまして第 2 回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会理事会を終了させていただきます。皆様お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。